

# 紋別港親水地区活性化の課題と取り組みについて —みなとオアシス「もんべつ」との連携を事例として—

紋別市役所 建設部港湾課計画管理係 ○中島 悠介  
紋別市役所 建設部港湾課建設係 伊藤 優義  
網走開発建設部 紋別港湾事務所 渥美 洋一

紋別港「ガリヤ地区」は地域の観光・交流拠点として機能する一方、新たな課題への対応が必要となっている。紋別市及び紋別港湾事務所は、これらの課題に対応するため、みなとオアシス「もんべつ」を中核として地域の様々な主体と連携協働し、地域の活性化に向けて多様な活動に取り組んでいる。本報告では、クルーズのポートセールスなど3点の取り組みについて報告し、様々な主体と連携した効果を考察する。

キーワード：地域活性化、多様な連携・協働、みなとオアシス、ガリヤ地区

## 1. はじめに

紋別港の「ガリヤ地区」の「オホーツクタワー」、  
「親水防波堤」などの中核施設は完成から20年が経過し、紋別市の観光拠点として機能している。しかし、ガリヤ地区の親水施設は、流水観光の伸び悩み、インバウンドなどの新たなニーズ、地域住民の更なる交流促進など、新たな課題への取り組みが必要となっている。これらの課題解決のため、紋別市、紋別港湾事務所は、みなとオアシス「もんべつ」（代表：竹内珠己）を中軸とし、様々な主体と連携協働してガリヤ地区活性化に向けた取り組みを行っている。本稿では、平成28年度の新たな3点の取り組みについて報告する。



図-1 ガリヤ地区の主要施設

## 2. ガリヤ地区利用の現状と課題

### (1) 利用の現状（主要構成施設とイベント）

ガリヤ地区を構成する主要施設を図-1に示す。これらの施設はみなとオアシス「もんべつ」の中心施設も構成する。また、ガリヤ地区を中心に行われるイベントを表-1に示す。また、ウォーターフロントフェスティバル（海洋コンサート、図-2）等、みなとオアシスのイベントも行われている。



図-2 海洋コンサートの様子

表-1 ガリヤ地区のイベント

開催月	イベント内容
7月	オホーツクタワー夜間営業
	ガリンコ号Ⅱ 港まつり花火クルーズ
8月	遊びたガリヤフェスティバル（☆）
	オホーツクタワー夜間特別イベント
	ウォーターフロントフェスティバル（☆） 流水科学センター夏のイベント
9月	オホーツクタワー9月連休イベント
	紋別港 みなと見学会（☆）
10月	オホーツクタワー臨時夜間イベント
11月	オホーツクタワーまつり
12月	もんべつ海産まつり
	ステアアニバーサリーフェア
1月	オホーツクタワー元旦営業
	ガリンコ号Ⅱ 初日の出クルーズ
	ギザお正月遊び ガリンコ号Ⅱ 冬期運行
2月	流水あいらんど共和国
	もんべつ流水まつり オホーツクタワーイルミネーション点灯式（☆）

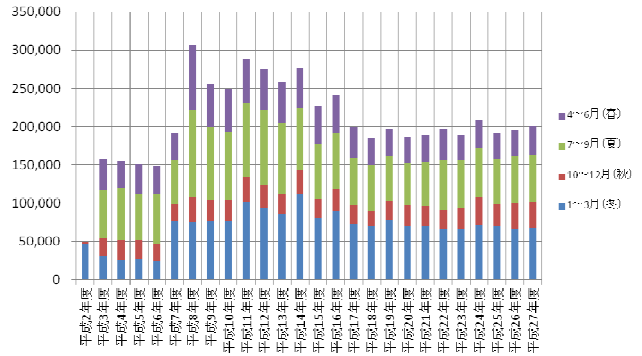
（☆）…みなとオアシス「もんべつ」の関連事業  
イベント名の文字色は図-1の開催場所に対応

(2) 利用上の課題

a) 観光客入込み数の傾向

表-2 にガリヤ地区関連施設の利用客数の経年変化を、表-3 に季別も考慮したガリンコ号Ⅱ乗船客数の経年変化を示す。これらより、紋別市の観光客入り込みは夏期及び流氷時期がピークとなっており、相対的には漸減の傾向にある。特に流氷期については流氷接岸日数の減少もあり減少が著しい。ガリヤ地区関連施設の利用も一部の施設を除き、観光ピーク時期とイベントに依存している傾向がわかる。

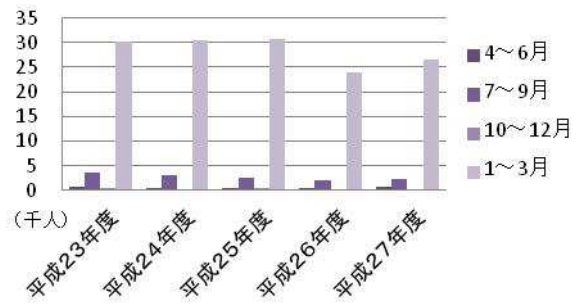
表-2 ガリヤ地区全体の利用者数の推移



b) ハード・ソフト面のリニューアルの課題

ガリヤ地区内親水施設の老朽化対策や機能維持など、施設リニューアルの課題が顕著となってきた。具体的には、紋別港第3防波堤の高欄劣化(図-2)、ホワイトビーチにおける海水交換部からの漂砂によるビーチ内の堆砂などが挙げられる。ソフト面の課題としては、紋別港やガリヤ地区の親水施設、みなとオアシス等みなとに関連する情報についての案内表示や、Wi-Fi機能のより充実した整備が必要である。今後の交流拠点・観光拠点としての役割を考えると、みなとの振興に関わる情報提供機能の充実は不可欠である。

表-3 ガリンコ号Ⅱ乗船客数推移(季別)



c) 新たな要請

近年、紋別市では夏の冷涼な気候を求めて訪れる観光客が多くなっており、紋別市も「避暑地化構想」の施策を打ち出し需要を取り込もうとしている。具体事例としては、ガリヤ地区の海洋公園(港の迎賓館)を中心に、シニア世代によるキャンピングカーを利用した夏場の長期滞在が顕著となっており(図-3)、オートキャンプ場等の整備も検討している。併せて、観光のピーク時期やイベント開催に依存しない交流空間の魅力を作り出すソフトも必要とされている。



図-2 第3防波堤高欄劣化状況(応急対応中)

3. みなとオアシス「もんべつ」を中軸とした新たな活性化の取り組み

みなとオアシス「もんべつ」は、観光拠点「ガリヤ地区」を中心に「みなとに賑わいを呼び込み交流・ふれあい拠点づくりを推進する」ことを目的として、みなとオアシスに関わる情報収集と広報、各分野の連携促進とイベント等の企画・実施を行っている。平成28年度は先述したガリヤ地区の課題を解決し利用活性化を図るため、みなとオアシスを中軸とし多様な主体と連携・協働して新たな取り組みを行っている。本報告では、(1)平成30年度クルーズ誘致に向けたポートセールス、(2)「紋別港湾事務所 CPDS 技術講習会」の開催、(3)みなとオアシスの認知度を高める取り組み、の3点について報告する。



図-3 キャンピングカーの利用状況

(1) 平成30年度クルーズ誘致に向けたポートセールス  
紋別市及びみなとオアシス「もんべつ」では、みなとを中心とした活性化の起爆材として、平成30年に「Sea級グルメ全国大会」を紋別市に誘致し、開催時期に合わせてクルーズ船の寄港を実現することを計画しており、本年度は様々な主体と連携し以下の取り組みを行っている。

a) 「ポートセールス戦略勉強会」の開催

実際にポートセールスを行っている港湾管理者からポートセールスの情報を得ることは非常に効果的であるが、競争関係もあり実現が難しい。そこで、紋別港湾事務所が元稚内市建設産業部長の日向寺和裕氏を講師として招聘し、飛鳥II誘致の経験を中心としたポートセールス戦略と企画書作成のノウハウを学ぶ勉強会を、6月9日に紋別港湾事務所で開催した。開催にあたっては、紋別港湾事務所長の呼びかけにより、市港湾課・市観光交流推進室・みなとオアシス「もんべつ」運営協議会・紋別海上保安部・紋別観光協会など関係機関が一同に参画し、地域一体でポートセールスに取り組む意識を醸成する観点からも効果的であった。

b) 企画書作成とポートセールス

本年度、夏から秋期をポートセールスの正念場と考え、紋別市長を中心に最低3回のポートセールスを実施することを関係者で確認し、船社訪問を開始した。企画書作成にあたっては、紋別市・紋別港湾事務所・みなとオアシス運営協議会を中心として「企画書作成会議」(図-1)を定期的で開催し、企画書のブラッシュアップを図ることとした(図-2)。また、クルーズ船の係留予定箇所を港南-7.5m岸壁に設定し、対象となる「にっぽん丸」「ばしふいっくびいなす」を運航する船会社2社を中心にポートセールスを行った。おもてなしの核となる「食」の情報については、網走開発建設部やJAのネットワークで情報収集を行った他、網走港寄港時の飛鳥IIのおもてなしを関係者で実際に現地確認を行うなど(図-3)、多様な主体と連携しクルーズ誘致を実現すべくポートセールスに取り組んでいる。



図-1 企画書作成会議



図-2 クルーズ船誘致のための企画書



図-3 網走港寄港クルーズ船の視察

(2) 「紋別港湾事務所CPDS技術講習会」の開催

a) 開催目的と工夫

ガリヤ地区の「観光ピーク時期・イベントに依存しない交流ソフト」を作り出すために学术交流・会議招聘のソフトに着目して、紋別港湾事務所主催、紋別市共催という形で、直轄・民間技術者及び港湾管理者の技術力向上と、地域で活躍する1級土木施工管理技士のCPDS取得支援を目的として技術講習会を計画的に開催することとした。オホーツク流氷科学センターを会場とし、年間開催計画(表-1)を最初に公表して、年間を通じた交流の場作りに取り組んだ。

表-1 CPDS講習会 年間開催計画

	開催日	講演内容	ユニット数	参加人数
第1回	28.7.25	北海道の「みなと」と「技術開発」について 北海道開発局 港湾建設課 港湾保安保全推進官 上田 裕章	2	84
第2回	28.8.23 (大雨のため中止)	①「港湾漁港工事の同種災害を防止しよう」日本理立淡路協会北海道支部安全衛生委員会委員長 古田 圭也 ②「北海道開発局管内の動向について(港湾関係)」 北海道開発局 港湾建設課 建設第2係長 菊池 隆一	2	中止
第3回	28.10.11	①「土木研究所の新たな中長期計画と寒冷沿岸域チームの取り組み」寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム上席研究員 中嶋雄一 ②「オホーツク海沿岸の海岸道路盛土の被災発生条件とその対策」寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム研究員 本間 大輔 ③「近代土木遺産の修復、函館漁港船入潮防波堤の修復について」日本データサービス顧問 関口 信一郎 ④「紋別港観水防波堤」 株式会社西村組 札幌支店長 中村弘之	4	86
第4回	28.12.5	①「既設構造物の維持管理に望むこと」 北海道大学大学院工学研究院 教授 横田 弘 ②「港湾構造物の点検診断について」 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 構造研究グループ長 加藤 紘夫 ③「構造的な性能評価に基づく橋梁の新しい点検・診断法」 北海道大学大学院工学研究院 准教授 佐藤 靖彦 ④「ドローンを活用した港湾・海岸保全施設の点検」 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 構造研究グループ 研究官 山本 幸治	3	131

## b) 取り組みの効果

「紋別港親水防波堤」「維持管理と点検診断技術」など、地域の行政や技術ニーズに直結したテーマを選定したため、熱心に聴講・意見交換され、プレスにも度々掲載されたため、地域で技術力の普及に取り組む実施主体の役割が広報される結果となった。また、地域の複数の主体と連携し3回の技術講習会を計画通り開催し、一定の集客と広報をできたことで、関係者間で達成感と交流機能を拡大するソフトとしての自信を共有できた(図-1、図-2)。



図-1 講習会の会場の様子

## (3) みなとオアシスの認知度を高めるための取り組み

「みなとオアシスの認知度」を高めるための活動として、ここでは本年度に初めて実施した「紋別港シルバー世代みなと見学会」と参加者アンケート結果について報告する。

### a) 着眼点と工夫

紋別港「ガリヤ地区」は、紋別市民にとっても地域の交流拠点・憩いの場として欠かせない空間であり、観光ピーク時期やイベントに依存しない日常的な利用を考えるうえでの重要な要素である。そこで、紋別港の地域交流拠点・憩いの場としての魅力・可能性を考える場として、紋別市在住の60才以上のシルバー世代を対象とした「みなと見学会」を、本年度初の試みとして開催した。見学会の内容としては、ガリコ号IIによる紋別港内の見学(図-3)、親水施設の散策やオホーツクタワーの見学(図-4)を行い、最後に「参加者アンケート」を実施して、ガリヤ地区の課題・要望に関するデータを収集することに取り組んだ。また、見学会説明とアンケートの中には「みなとオアシス「もんべつ」の説明と活動状況を盛り込み、この見学会についても「みなとオアシスもんべつ登録3周年記念事業」、「海の駅」認定記念事業という冠事業として紋別市ホームページその他で参加者を公募することで、「みなとオアシスの認知度」を高める工夫を行っている。



図-2 第3回横田先生の講演



図-3 ガリコ号IIによる港内見学

### b) 開催結果

9月26日(火)の開催時には、紋別市在住のシルバー世代110名が参加し(図-2)、みなとでの憩いを満喫する結果となった。アンケートも85名からの回答を得ることができた。広報面では、「開催状況」と「アンケート結果」について「北海民友新聞」とNHK北見放送局で紹介され、「みなとオアシスもんべつ」の活動が広く紹介される結果となった。



図-4 オホーツクタワー見学

### c) アンケート結果について

実施した「みなとに関するアンケート」の設問は、①参加者の情報、②みなとに行く頻度と時期、③施設利用とイベント参加の状況、④みなとの空間に求める機能・不足している施設、⑤ガリンコⅡ号とオホーツクタワーについて、⑥みなとオアシスについて、など6項目である。アンケート結果から考察できるガリヤ地区の展望について概要を述べる。

参加者の情報について、年齢構成を表-1、紋別市の在住年数を表-2に示す。みなとに行く回数・頻度は「月1回程度」と「年に数回程度」を合わせると全体の9割を占め(表-3)、その訪れる目的としては「イベント見学」が全体の5割、「散策」が4割以上(表-4)を占めており、みなとは紋別市民にとって交流空間・憩いの場として重要であることが再確認された。

紋別港の空間に求めるものとして、本アンケートでは利用する交流機能を最大3つまで選択可としたところ、表-5に示すように、「海に触れ眺望を楽しむ」「海を見ながら食を楽しむ」「イベントに参加する」などの地域住民の憩いの空間としての機能が約7割を占めている。

表-1 参加者の年齢構成

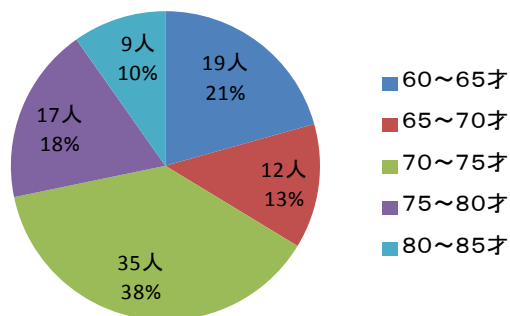


表-2 参加者の紋別市の在住年数

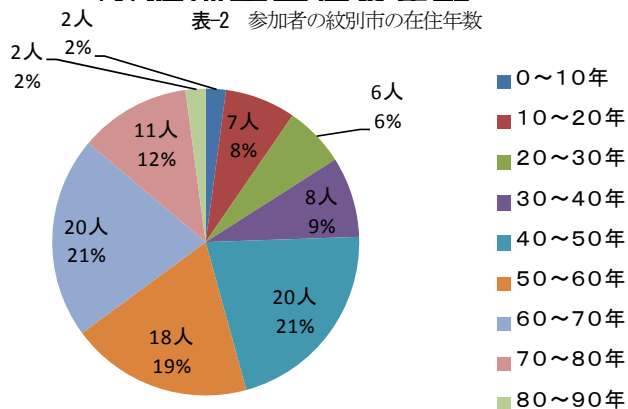


表-5 紋別港の空間に求めるもの

・憩いの空間、海に触れ眺望を楽しむ場として	30人
・海を見ながら食を楽しむ場として	39人
・イベントに参加し楽しむ場所として	22人
・みなとに設置されている施設を利用する場として	8人
・地元住民・観光客とふれあう場として	14人
・船を見たり利用する場として	11人
・ガリンコ号Ⅱ・オホーツクタワーなどを利用した流氷見学の場として	16人
・釣りを楽しむ場として	15人
・みなとを中心とした紋別市の地域情報拠点として	11人
・みなとの空間・施設を活用した健康づくりの役割	6人

表-3 みなとに行く回数・頻度

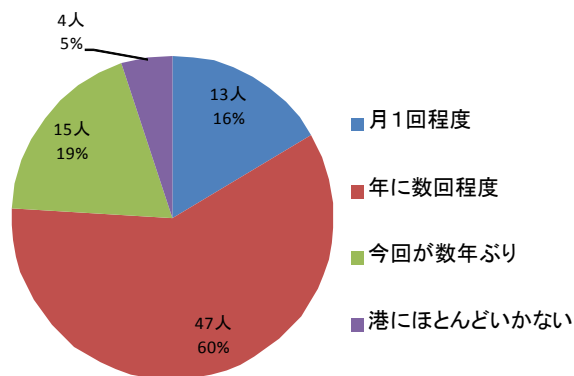
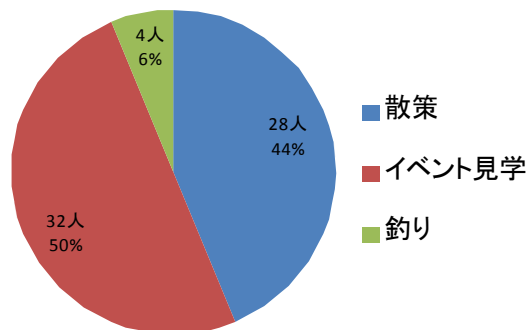


表-4 みなとを訪れる目的



また、みなとに不足するものについてもアンケートを行い、上位3項目は「ベンチ・休憩施設」「港周辺の案内や情報掲示板」「キャンプ場（オートキャンプ場含む）」となったことから、紋別在住年数の長いシルバー世代からも、みなとの表示・案内機能や「ガリヤ地区」主要施設間の休憩施設などが求められていることが明らかとなった(表-6)。

みなとオアシスの活動については、見学会での説明やアンケートを通して周知を行ったことにより、「みなとオアシスの認知度向上」についても相応の効果が得られた(表-7、表-8)。

表-6 紋別港の空間に不足していると感じるもの

・ベンチ、休憩施設	14人
・港周辺の案内や情報掲示板	10人
・花壇など	2人
・キャンプ場（オートキャンプ場含む）	10人
・港の施設におけるイルミネーション	1人

表-7 「みなとオアシス」という言葉を聞いたことがあるか

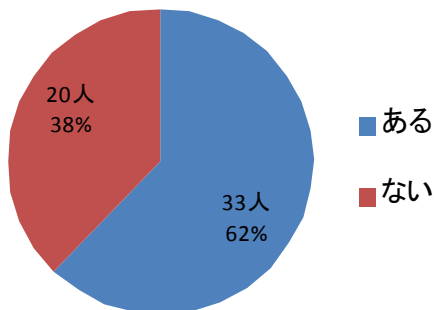
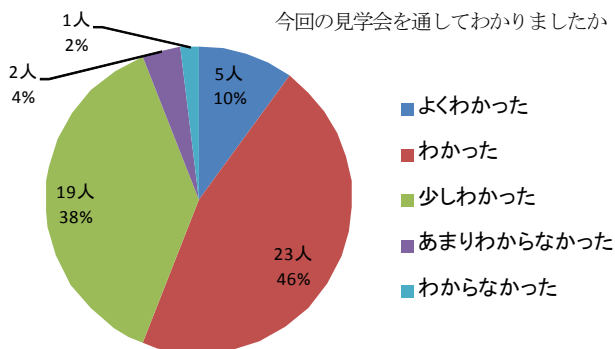


表-8 「みなとオアシス」という言葉について、今回の見学会を通してわかりましたか



#### 4. まとめと今後の課題

本年度のみなとオアシスを中軸とし様々な主体と連携した紋別港親水地区活性化の取り組みを通しての効果と課題について、以下に取り纏める。

- (1) クルーズ誘致のためのポートセールスの検討は、地域の「観光・食・人的資源」などの魅力を多角的に検討する必要がある、検討と必要な情報収集を行う上で、みなとオアシスを中軸として様々な主体と連携することがとても効果的であった。
- (2) クルーズ観光は常に新しい寄港地やメニューが求められている傾向があり、継続的なクルーズ寄港を確保するためには、「おもてなし」のメニューづくりに加えて、クルーズ寄港地である近隣自治体や近隣のみなとオアシスとの連携した魅力づくりが重要であり、今後の課題として取り組む事が必要である。
- (3) 技術講習会開催の取り組みについては、さらに様々な主体と連携していくことで、観光・グルメ・地域産業・福祉など、複数分野での交流機能拡大のソフトとして応用できる。また、こうしたソフトの取り組みを継続的に取り組みPRしていくことで、紋別港の「ガリヤ地区」について学術・交流機能の観点からも活用の幅を広げていくことができる。
- (4) みなと見学会と共に実施した「みなとのアンケート」は、みなとオアシスの認知度向上や必要なデータ取得に非常に有効である。今回のアンケート結果により、ガリヤ地区の表示案内機能や休憩施設の不足が明確となった。今後は、親水施設として拡充すべき機能などをアンケートでより具体的に提示したり、アンケート対象者の年齢層も再考することで、本当に利用される施設・魅力ある憩いの空間づくりにつなげていくことが必要である。
- (5) 報告した3つの取り組みを通して、地域の課題把握、各主体と連携調整する能力、企画書作成、広報技術などについて、中堅若手の人材育成・コミュニケーションの活性化・モチベーション向上の観点から非常に効果があることが体现できた。